

2月26日5団体会議の結果

- 中口新聞に意見広告をのせる。名前を列記する。
- かくかくとも2市4町には各戸にポストカードを貼る。

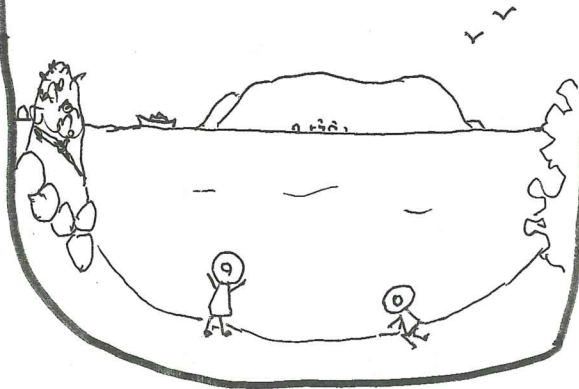
○関西電力への署名 260,460筆。

関電は受け取る場をもうけない。岸田さんか5分くらい対応。マスコミ取材はダメ。写真さつえいもダメといく。

「ぼろぼろ」
関電前集会を!
日時はまだ近いうちに決めます。
関西の皆様どうぞよろしく!

田の浦ビクニック & ビーチクリーン

2024.3.25日(月)雨天の時3.28日(木)
連らく先 原真紀 070-5309-1032
河本文江 090-8063-4785
お弁当、水筒、ぼうし、手袋を忘れないぞ!



中国電力の担当者(右側)に中間貯蔵施設の建設中止を訴える市民団体のメンバー
＝島田市中央区

28期

「中間貯蔵反対」27万筆
4団体、中電に署名提出

中国電力が上関町で計画している中間貯蔵施設建設の中止を訴える市民団体のメンバーは、27日、中国電力の島田支店に署名提出を行った。署名は27万筆に達した。上関町議会も署名提出の中止を申し入れた。

「中間貯蔵反対」の署名は、島田市の各町会や公民館などで集められた。署名提出は、中国電力の島田支店で行われた。署名提出は、中国電力の島田支店で行われた。署名提出は、中国電力の島田支店で行われた。

「中間貯蔵反対」の署名は、島田市の各町会や公民館などで集められた。署名提出は、中国電力の島田支店で行われた。署名提出は、中国電力の島田支店で行われた。署名提出は、中国電力の島田支店で行われた。

275,043筆

「上関町中間貯蔵施設建設中止を求め署名」を2月7日、中国電力に提出しました。

ご協力ありがとうございます。申し入れのよろしゅうです。

次の集まり

2024年3月10日(日) 13:30

周南市役所シビック交流室6

2024年2月12日の報告

原発いらん!
山口ネットワーク

3月23日はビッグジェル!

428号

代表者 小中進
〒742-1513 山口県 熊毛郡 日布佐町 麻郷 2208
Tel.Fax. 0820-55-6291
振込口座(年会費2000円)
(郵) 01590-5-27469
口座名「原発いらん!山口ネットワ-ク」
作製・印刷・発送
周防灘の自然を守る会
三浦翠とメンバーズ

年会費の振込用紙を
同封しています。
全員の同封していますの
ごまごにねられた方は気に
なさらなくて下さい。
年会費は2000円です。可能
な方はカンパもよろしく。
会計 三浦

3月11日(月) 14:30 上関町中電事務所前
「さようなら上関原発、福島を忘れない」
黙祷集会。連らく先 090-8996-8378 (小中)
3月23日(土) 10時~14時(雨天決行)
山口市維新公園 ビッグジェル

上関原発を建てさせない、核のゴミ
はいらない山口大集会。

この集会は、市民の賛同金
が唯一の財源です。ご協力を
お願いいたします。振込口座

よろしくお願いします

一口1,000円
【郵便振替】 01360-1-89742
【ゆうちょ銀行】 15550-21615251
店名:五五八(ゴゴハチ)普通預金
名義:山口県民大集会実行委員会

2月28日 11:30
国会で5団体主催
の院内集会が用かれます。

■例会の報告(2月12日)

・参加地域 田布施・光・下松・周南・宇部

① 小中代表より

3連(休中)にも関わらず、例会に来て下さってありがとうございます。

上岡原発、中間貯蔵施設を建てさせないために、どのような取組みがいらばん効果的かそれを中心に話し合おうと思います。

② 今朝、いつものけまをうしろに、祝島の皆さんが通りかかって、「これから、中間貯蔵の予定地へ行ってみよう」とのこと。

中電の所有地の中というところも赤線は誰でも通れるので、今度行ってみよう。

1月24日のテレビニュースには中電がユニボをやめ取りのけるところが映っていました。あのあたりは、竹がいつぱい倒れ込んでごちゃごちゃになってるので、それをのけたのでしう。

③ 署名の提出。

27万5000筆という数字には私もびっくりしました。たった3ヶ月間の取組みだったのに、これはすごく重みのある数だと思います。

2月7日に中電に持って行きました。署名用紙を入れたダンボール箱をずらりと並べて申し入れ書を渡しました。

うちのテレビニュースは報道したのですが、翌日の新聞にのせたのは朝日だけでした。↓P①

申し入れる様子と私がブログに写真までのせていた。中電は削除してくれと言ってきた。それが条件で申し入れを受けたのだというのです。公益企業なのに、こんなことではいいのめと回すいよ。

関西電力はもっとひどいです。署名を受取る数分間の対応だけだと言っている。

関西の人に聞くと、中電はいつもそうぞ、何の申し入れも受け付けないのだそうです。

中電の回答は、相変らぬ

「上岡町長の振興策はないか」という提案に、真摯に対応した結果、中間貯蔵施設を提案させていただけました。

脱炭素のためには原発が必要、そのためには中間貯蔵施設も必要。中間貯蔵と原発の両方を今後、上岡町で進めて行きます。」というものでした。

⑤ 意見広告のこと。

宇部25人、2500月集った。宇部では、これから取り組むところもあるので、期間をのびしてほしいという声がある。

目下自民党はけしからんと怒っている人が多く、積極的に協力してくれる人が少ない。

⑥ 各地の取りくみ。

・宇部、小野田、美祢として次の県議会に「能登地震の結果を見るならば、上岡町に中間貯蔵も原発も絶対にならぬ」という請願を出すことになった。②

・上岡原発いらいね、光・下松市民の会では下松・光で中間貯蔵についてアンケートを取ろうという活動がある。

・周南では2/19の総がかり行動の前に集って話し合う。
3/11福島を忘れない「中電上岡事務所前」の集会の後で、徳山駅前まで、ピラ配りや街宣をすることに。

⑦ 3月23日、上岡原発を建てさせない山口大集会に向けて、

宇部、小野田、美祢からはレンタバス2台で行く。
東部からは柳井からと若口からと2出口出せるように話し合っていたい。
中賛同金を集めよう。

(例会の報告のつづきです)
⑧ その他

・最近NUMO(ニューモ・原子力発電環境整備機構・経済産業省)の公告がやたら多い。これは税金だ。

・中島哲演さん(3.23に来られるに当り、前後の日程にゆとりを持たせられまので、ゆっくり話したいというグループがあればどこへでも行ってみよう。ご検討下さい。080-6331-0960)
・福島から来られる今野寿美雄さん(子ども脱被ばく裁判「原告代表」もしばらく滞在されますので、囲む会を持つことが出来ます。

・安藤さん 080-6331-0960まで連絡を。

「ALPS処理水の海洋放出停止を求める署名を同封しました。」
「またか」と言わばいい。これは30年と40年と続くのです。
「このれば安全」を科学だと言うような嘘は許せない。

イベント情報

when	what	where	連絡先
3月10日(日) 13:30~	原発いらん! 山口ネットワーク例会	周南市役所シビック交流室6	0820-55-6291 小中 匡
3月11日(月) 14:30~	さようなら上岡原発, 福島を忘れない。	上岡町, 中電事務所前	"
3月13日(水) 11:40~	朝鮮学校への補助金と復活せよ, 座り込み。	県庁前広場	朝鮮学校と支援者 山口県ネット 0836-21-2003
3月23日(土) 10:00~14:00	上岡原発と建て替えはい、核のゴミはいらない山口大集会	山口市維新公園 野外音楽堂(ピクニック)	080-6331-0960 安藤
3月24日(日) 14:00~16:00	おんせん地にミカド配備NO! 報告と歌 池田年宏さん (大分県産ミカド弾薬廃棄問題を考へる市民の会 運営委員, 中京映教取員)	川郡ふれあいセンター 2階集会室 (無料)	080-5750-2590 池野 正に 土砂を 送地ない! 山口の 地
3月25日(月) 11:00~14:00 雨天の場合 3月28日	田の浦ピクニック & ビーチクリーン	田の浦 海岸	070-5309-1032 原 真紀さん 090-8063-4785 河野文江さん

裁判のこと

・中電カルテル株主代表訴訟
○4月10日, 進行協議・法廷なし。
・福島県民の会の裁判(岩口支部)
○2024.4.18(水) 10時30分
○山口地裁
・上岡原発用地埋立延長違法裁判(3回)
○2024年5月8日(水) 14時
・伊方原発運転差止め裁判(25回)
山口支部
○次回未定, 6月頃から証人尋問がはじまる。

・2月1日の「福島県民の会の裁判」については↓P④に
・2月8日の「伊方原発運転差止め裁判」については、山田誠さんの報告がありがとうございます↓P⑤

お本の紹介



A5版 84P 1000円+税
(株)せらぎ出版 tel. 06-6357-6916 FAX. 06-6357-9279
③

○著者の森重晴雄さんは山口県宇部市出身。

元三菱重工勤務。福島第一原発一号機の耐震構造を研究。

「原子核工学と土木工学に精通し、なおかつ原子力発電所の現場のことも熟知。」
2004年三菱重工退職後再生エネルギーの研究を行っている。

現場を知る者として、福島第一原発一号機の問題は一刻の猶予ないと考え、政府と東電に働きかけたが、動かないことから多くの人にこの事実を知ってもらいたいと本書を執筆。

2月1日・祝島の島の会の裁判のこと。

・傍聴希望者79人、抽選で23人が入選。

この日も、東広島島からバス（山口、広島市）内からも何台かの車に「乗り合わせて来て下さったので、抽選の列ができました。」

山口県内からも是非傍聴に来て下さい。入選できなかったも、その後の報告集会と裁判の内容をくわしく知ることができ、ます。祝島の人の話を聞いて、祝島の物販もあります。

・原告・中電の弁護士5人、被告、弁護士5人、祝島の島の会から

・祝島側 弁護士による陳述。

「中電は埋立免許を取得しているから、一定の公有水面を支配管理する権利があると主張するが、公有水面埋立権とは、埋立が竣工した後、その土地の所有権を得るというだけで、埋立工事の目的には、一般海域の利用に関する条項に基く、使用許可を得る必要がある。」

この訴訟の「公有水面埋立権に基く、妨害予防請求をする以前に、どのような許可を得ていない中電は、埋立工事をすすめることはできない。」

さらに今後「一般海域の利用に関する条項に基く許可が取得されても、公有水面の占用許可は可能な限り、自由使用を妨げないようにしなければならぬ。」という県の基本方針があり、祝島の島の会の会の行動は、その自由使用に当る。

その海域でボーリング調査に対する抗議活動をする事は、憲法21条第一項によつて保障されている集会的自由や表現の権利にもとづくもので、妨害行為とは言えない。

この海上ボーリング調査は中電が独自の判断で、原発建設にむけた断層調査のために行っているもので、埋立工事のためのボーリング調査ではない。

現時点で影響も少ない原子力発電所建設のためのボーリング調査をするというのは不自然である。

このボーリング調査は、すでに数年前から進められていた中間貯蔵施設建設のためではないか。

この間に対し、中電は、

「ボーリングができていないので、目的はわからない」と答えている。

こんな態度が話はない。こんな重大なことを何の目的かわかりないで始めるなんてあり得ない。

2000年の漁業補償契約は原発建設のためのものであり、中間貯蔵施設建設のためのものではない。

2000年漁業補償契約にもとづき、中間貯蔵施設設置・運営を目的とした海上ボーリング調査を漁民の漁業行為を排して行うことは許されない。

山口県知事も、2012.26の記者会見で、

「原発と中間貯蔵施設を併存させることは過大な負担であるとし、使用済核燃料を長期にわたって保管しないよう求めた、二井元知事の条件を踏襲すべきとしている。」

●報告集会

祝島の島の会の清水欽保さんより、

中間貯蔵についは周知市町の皆さんと共に反対して行きたい。目下署名活動に取り組んでいます。

今年には神舞の年です。コロナで振替たので今年がになります。

8月16、17、18日、体育館で行います。

神舞は千年以上の歴史があり、山口県の無形文化財にもなっています。人数も少なくなったが継承して行きたい。

「文化ものこしえ、原発はついで、補償金なんかもろっこつくなる、」という気持です。

花形は漁船による海上パレードですが船も少なくなったので近隣の人にも協力してもらってやりたい。

是非見に来て下さい。

神舞へのカンパもよろしくお願ひします。

祝島の反対運動は女性の力が強いし、長続きします。

「としばー、なんしなるか、がんばってやらんか、」と叱咤激励されます。それが嬉しいです。

女橋本法子さんから、

宇部の方から広島の方からありがとうございます。

祝島のおぼろさんたちも皆年をとつて足が痛くなつたり腰が痛くなつたり。ここにきてくも来れん人が多くなつきました。私は65歳で若手と言われます。

おワタヤさん

祝島では漁師さんが「明日市場が休みなのを忘れてつた」と魚をどさつと持て来てくれたり、あつたりもろたりして日々を暮らしてあります。

今日は報告席に座らせてもらうと、相手の表情をしっかりと観察させてくれた。よかった。

上里恵子さんからの
投稿です。

上関町の中間貯蔵施設について

上関町に原発計画を抱えたままでも中間貯蔵施設の計画が持ち上がった。西町長は町財政が逼迫しているために、その打開策として検討するのだという。中国電力に町長が“地域振興策”を打診し、今はその結果としての展開となっている。原発設置を促すために電源三法交付金制度が出来たのが1974年。上関町は1984年から交付金を受け始めた（これまでに約77億3千万円）。中電からの寄付金36億円。合わせて110億円が上関町に入っている。原発計画が保留状態の現在は、ここ数年、交付金は年間7千8百万円となっていた。

中間貯蔵のための調査を受け入れることで、町には7千4百万円が交付された。これを持って、上関町の《中間貯蔵施設》の受け入れは、『上関町独自の町の財政問題』だと町長は捉える。そして、反対行動をとる人々の中に、「他県ナンバーの車がある」と非難したりもする。

果たしてこの考えは正しいのだろうか？ なぜ中間貯蔵施設が必要になるのか？ これを突き詰めて考えて行くと、中間貯蔵施設問題が上関町だけの問題と言っているのかどうか分かってくる。これは、この国が採用している“核燃料サイクル”のシステムが、破綻していることの証なのである。2024年2月9日、朝日新聞が「核燃料サイクル 立ち往生」のタイトルで記事を書いている。サブタイトルは「六ヶ所村の再処理工場27回目の完成延期か」とある。国の核行政の要である燃料サイクルが動かないのである。つまり、《使用済みの核燃料を処理して再利用する》工程が動かない。従って使用済みの核燃料をストックを継続し続けなければならないことになっている。使用済みになった直後の燃料棒は原子炉建屋の中の燃料プールに保管するが、その容量には限りがある。満杯になれば、それ以上使用済み燃料を増やせない。それを防ぐために《乾式貯蔵》が必要になる。それを保管するのが中間貯蔵施設である。原則、原発敷地の傍に設けようとしている。

それを独立して設置しようとするのが上関町の《中間貯蔵施設》ということになる。それは、原発を動かし続ける仕組みを作ることである。現在、CO₂を出さないクリーンな発電装置としての国の位置付けで原発を動かそうとしている。それは正しいことなのか？

いま、私たちにはそこを考えることを促されている。核エネルギーは特殊なエネルギーなのである。《ウランを燃やす》と言うが、燃やしている（酸化）訳ではない。核を分裂させて、宇宙の場で、高温高压で閉じ込められた核の中のエネルギーを利用しようとする装置なのである。その結果何が出てくるか。欲張りが欲しがった葛籠には有象無象の不要物で一杯になった舌切り雀の話のように、人の手には負えない放射性物質で溢れかえってくるのである。これを“クリーン”だという言葉で糊塗する国の説明はベテンである。使用済み核燃料が満杯になって原発が動かさないなら、そこで、原発を止めればいいだけの話。原発を動かし続けられる仕組みを作って、放射性物質を増やし続けるのは、未来の人たちへの激しい裏切りでしかないのである。

決して、町財政の立て直しの話なのではないと見破らなければ……と思う。

2月8日の
裁判の報告

伊方原発運転差止裁判 第23回口頭弁論の報告

24年2月11日 山田記

山本弁護士が準備書面40、松田弁護士が準備書面41の口頭弁論を、中野弁護士が「現在の火山学の知見について」の準備書面42を提出しました。

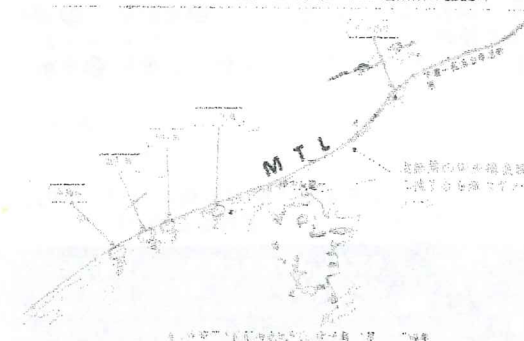
山本弁護士の口頭弁論

***小松教授らが指摘する伊方原子力発電所周辺の地層について、
ハーフグラaben（半地溝）が形成されているのは間違いのない事実**

準備書面40

小松教授が指摘する地質境界として断層の動きは被告が認識している「正断層運動をする活断層」と一言で要約するような単純なものではありません。小松教授の見解は「地質境界としての中央構造線について正断層成分の強い張力場であり、伊予灘のハーフグラaben（片側だけの運動で形成される断層）を形成してきたが、この応力場が現在に至るまで全過程でそのままの形で維持されているのではなく・・・短縮応力を伴う右横ずれも含む運動に変化した可能性がある」と解するものであるということです。

佐田岬半島北岸の地形的特徴
北岸の岬はどれも先端が切り取られたように揃っており、先端の包絡線はMTLに平行で、海崖は沿岸から急に深くなる。これが活断層の証拠。



実際、最近起こった熊本地震は大分-熊本構造線が動いたものであるが、これは中央構造線の延長そのものと考えられ、ハーフグラabenを形成しました。ということはこの地域の動きは伊予灘にも当てはめることができます。またハーフグラabenを形成する活断層は敷地より2km以内、具体的には600mのところに存在する可能性があり、存在を確認するためにはボーリング調査が欠かせないが被告は実施しようとはしないまま現在に至っています。

松田弁護士の口頭弁論

***新規制基準に適合したから安全が確保されたわけではない**

準備書面41

原子力規制委員会の田中俊一委員長は「私たちが挑戦している山には頂上がなく、山の何合目にたどり着いたのかさえわからない山登りのような、と思っています」というように原発の安全対策は規制基準に合格したから安全だと言えはるはずもないと原子力規制委員会も認めているが、四国電力は安全だと強弁しています。例えば地震などによる避難対策で言えば、能登半島地震でも道路が寸断され集落が孤立しました。伊方原発は佐多岬半島に位置しており能登半島と同様の地形的な危険があり、国道197号線が寸断された場合避難が困難になることは容易に想像できます。しかし四国電力はその対策などまったく示していません。

中野弁護士の証人尋問についての新たな提案

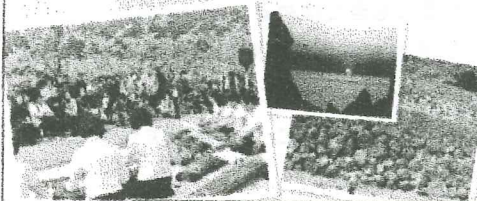
また、報告会では火山問題担当の中野弁護士が証人尋問のありかたについて新たな提案を考えている、つまり専門家証人に対し専門家でもない被告弁護士による本質とは外れた尋問より「公判の場において双方の専門家証人同士の論争」の方が裁判官にとっても何が問題になっているか分かりやすいということでこの裁判でも問題提起をしたいと述べました。

花咲く海の町 第5回 フォトコンテスト 作品募集

応募期間
～2024年9月30日

海・山・街・時・人・祭

6つのテーマで応募できます



お問い合わせ 上関町商工会
花咲く海の町フォトコンテスト実行委員会
☎0820-62-0177【平日9:00～16:00】
http://www.kaminosekichou.jp/
主催/上関町商工会 共催/上関町観光協会
後援/上関町

最優秀賞 20,000円相当
(1作品)

優秀賞 (2作品) 10,000円相当
カテゴリーギフト&特産品詰め合わせ

ご応募いただく作品は、2022年8月1日から2024年8月31日の間に、応募者ご本人が撮影された未発表の作品で、使用権を含む著作権を有するオリジナルの単写真(組写真は不可)といたします。なお、プロの写真家の方は応募できません。

撮影方法
●カラー ●デジタル(加工不可)・ネガフィルム・ポジフィルム
※携帯電話やスマートフォンで撮影した写真も可
※デジタルのクオリティは高画質モードの撮影をお願いします

プリントサイズ
A4サイズまたは6つ切(約193×244mm)
6つ切ワイドも可(約203×305mm)
※上記以外のサイズでの応募は対象になりません

応募方法
①作品の題名(ふりがな) ②テーマ ③撮影場所 ④撮影年月日
⑤写真の種類(デジタル・ネガフィルム・ポジフィルム)
⑥お名前(ふりがな) ⑦おところ ⑧電話番号 ⑨年齢

作品ごとに縦13cm×横9cm程度の大きさの用紙に上記を記入し、応募作品1点ごとの裏面にテープで貼り付け(のり付けは不可) 郵便または宅配便(元払い)で、下記へお送りください。また、事務局への直接の持参も可能です。

応募先 〒742-1402 山口県熊毛郡上関町長島437-5 上関町商工会内
「花咲く海の町フォトコンテスト実行委員会」係

【注意事項】 1. 応募作品は返却いたしません。2. 受賞者には審査後に事務局から受賞の内定をご連絡いたします。受賞・落選のお問い合わせはご連絡ください。3. 受賞者に対して、審査終了後に作品のフィルム又は画像データをご提供いたします。なお、指定期限内に提出いただけない場合は内定を取り消すことがあります。4. 受賞作品の著作権は応募者(撮影者)にあるものとします。ただし、実行委員会並びに観光協会は展示会、発行・管理する印刷媒体、WEBサイト等で無償にて使用することがあります。また、使用時に受賞作品の全部又は一部を編集して使用することがあります。5. 応募作品で使用される著作物・肖像権については、応募者本人が著作権を有するもの、又は権利者から事前に使用許諾(撮影許可)を得たものであるとし、応募作品の著作権、応募作品に使用される著作物、肖像権等には一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

タウン誌にこんな企画をぜひ上関町商工会がなぜ核のゴミと受入れようとするのでしょうか。
「花咲く海の町」のイメージがないなしになると困るわばいの？

上関の良さ歩いて納得

1/31 甲

室津と祝島の3コース住民ら参加

意見交換魅力アップ策練る



瀬戸内海を望む道を散策する参加者



参加者は町歩き後、町の魅力について意見を交わした

上関町の住民たちが町内を歩き、地元の良さを見つめ直す活動が始まった。フィールドワークを通じ、見慣れた光景にも魅力が詰まっていると再認識するのが目的。初回は約30人が室津と祝島の3コースを巡り、隠れスポットを探した。

(山本祐司)

漁師文化が漂う室津の漁港▽瀬戸内海を一望できる室津の千葉稲荷神社▽定期船で渡り、練り癖の町並みを楽しめる祝島の3コース。町内や周

移住して来た秋山 鈴明さん(祝島在住、町議・引不)は原登や中野野蔵の(金に頼る)なくとも上関はすばらしいところだからその魅力を生かした町づくりをしようと呼びかけ続けている。

辺りまわりの関わる人たちが中心となり、それぞれ約10人ずつに分かれて3時間、じっくりと巡った。

町歩きを終えた参加者は室津の町総合文化センターに集合し、グループごとに意見交換した。巡った場所を基に地図を作り、各コースごとに良かったと感じた地点や、こついたらもっと良くなるという希望を付箋に書いて貼った。

最後は魅力を高めるためにできる工夫やアイデアを発表し合った。「定番観光をライブ配信したい」「休憩スポットにベンチを置く」「迷路のような町の形を生かし宝探しをする」といった観光を

結び付ける提案も出た。町内では原登計画や使用済み核燃料の中間貯蔵施設を建てる構想は注目されるが、豊かな自然や歴史は着目されにくい。

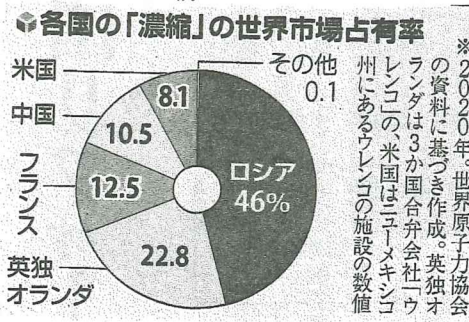
企画した町議の秋山鈴明さん(引不)は「上関にある物を探し、どうやって生かせるか、住民が自信を持って考えられる空気を共有したい」と話す。

参加した周南市の会社員堀永州平さん(48)は「地域の人が自分たちで行動を始めたのは素晴らしい。イベントで終わらせず、どう続けていくかが大切と期待を寄せた。グループでは今後も魅力づくりのアイデアを話し合い、他の場所でも町歩きをする予定。」

■関連の新聞記事(全口版)

ア=朝日
中=中口
ホ=毎日
日=毎日

- ・(1/18ア)屋内退避の指針見直し検討。原子力規制委事故時の解除条件。熊登半島地震を受けて。
- ・(1/18ア)発電・小売り分離提言。大手電力に公取委。競争阻害指摘。新電力の撤退相次ぐ。
- ・(1/25中)中部電力は25社。3月値上げ。
- ・(1/25ホ)米原子力「脱炭素」加速。低濃縮ウラン増産
- ・(1/25日)発電所の維持拠出金。1.3兆円。27年度5割超増。
- ・新電力の負担重く。
- ・(1/26日)デブリ除去。3度目延期。福島第一。装置用燃料に時間。廃炉費用膨らむ恐れ。
- ・(1/26日)再エネ計画に説明義務。4月から。住民向け。
- ・(1/27ホ)玄海3号機。未月2日再動。
- ・(1/27中)政権。原発政策に難題。志加原原発被災。想定外相次ぐ。新潟県知事。再稼働判断に悩む。
- ・(1/28日)データセンター電力消費急増。生成AI拡大。26年に2.3倍。政府は供給逼迫。備え急務。
- ・(1/28中)ネバダ。核廃絶訴之。早和公園で座り込み。
- ・(1/29新潟日報)柏崎原発。運転禁止解除。避難の不安訴之も。東電。刈羽住民説明会。
- ・(1/29ホ)志賀原発。審査長期化へ。能登地震。活断層運動。是起之の。複救の圧力器破壊。発。再稼働リスク検証し直せ。
- ・(1/29日)森林法。水源保全や災害防止。太陽光関連の林地開発行為急増。
- ・(1/29日)違法太陽光。2割は正せず。森林法。許可関係など指導。14件。本社調査
- ・(1/31中)複合災害の懸念各地に。従来避難計画通用せず。
- ・(1/31中)茅田首相。施政方針演説。



能登半島地震による影響

審査に地震の「バックフィット」も

避難計画の指針「原子力災害対策指針」の見直し検討

原子力規制委員会の審査

審査中10基(ほか未申請9基)

審査合格

柏崎刈羽6、7号機、東海第2

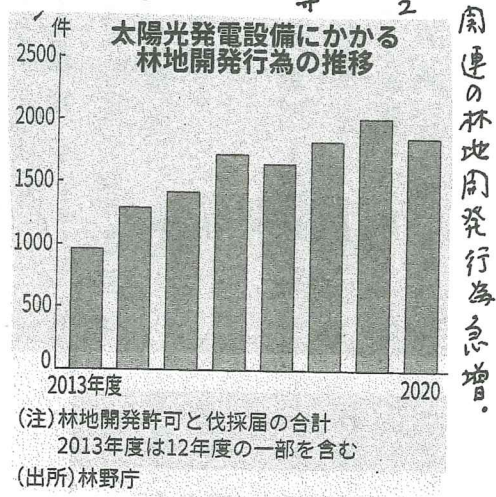
避難計画策定・地元同意済み

女川2、島根2

再稼働済み

関西、四国、九州の12基

原発再稼働の流れ



- ・(2/1中)電力会社が取高益。値上げ。燃料費下落。
- ・(2/3中)志賀原発。審査の長期化。能登地震。想定超す断層運動。再稼働済みに見直し要請も。
- ・(2/4中)福島第一。放射性物質の飛散防止カーブ。設置完了。25年に先送り。

- ・(2/4日)東電も再エネ発電制限。太陽光や風力対象。全国に。送電網。蓄電池の整備急務。
- ・(2/5日)G×入債。1兆円。脱炭素支援。次世代原発12億円。三菱重工業。
- ・(2/6日)洋上風力。地価10倍に。政府。領海からEEZに拡大。
- ・(2/7日)太陽光導入。未だ過去最高。EU。温室効果ガス削減。40年。新目標案。再エネ導入加速。
- ・(2/7日)電気代。ワ社値上げ。4月から。大手電力。送電線の整備。追加算。
- ・(2/7日)太陽光パネル。撤去難題。30年代以後。相次ぎ「引退」。
- ・傾斜地作業。費用割高に。再利用の促進策急務。
- ・(2/7中)除染。4000億円に。福島第一。事故対応。24年度までの累計。東電負担の原則。ゆらぐ。
- ・(2/7中)研究炉など廃止。2240億円。原子力機構が試算。
- ・(2/8日)福島の全原発に乾式貯蔵施設。
- ・(2/8日)福島第一。55トン水漏れ。放射性物質濃度が一時上昇。
- ・(2/9中)汚染水漏れ。東電が謝罪。
- ・(2/9日)福島。汚染水漏れ。中国が批判。談話。無秩序を露呈。
- ・(2/9中)核の心。段階調査は可能。経済産業省。毒都の全壊と神島の一部が対象。
- ・(2/8日)九電の川内。玄海原発。耐震基準に適合。規制委。
- ・(2/10日)柏崎刈羽。新潟知事。再稼働。県民の意思確認。2/10ア)出力制御。嘆く再エネ業者。減収。創産の恐れも。ほくほく。
- ・(2/11中)福島第一。事故から未だ13年。廃炉の道のり。なお遠く。汚染水。1日90トン発生続く。
- ・(2/11日)事故45年。廃炉作業続く。ホスリール原発。
- ・(2/14中)核の心。処分。文庫調査終了。概要調査に進むたのには。知事の同意が必要。鈴木直道。知事は反対。
- ・(2/14中)CO2貯留新法案。政府口会に提出。
- ・(2/15中)原発事故対策。見直し着手。
- ・(2/16日)汚染水漏れ。東電「確認ミス」。
- ・(2/17中)福島。富岡の帰還区域認定。
- ・(2/18中)太陽光パネル。再資源化。松江の企業稼働。
- ・(2/19中)汚染水。漏れ防止。東電社長。指導へ。経営相。
- ・(2/20中)女川原発。9日再稼働へ。2号機。被災地。初。総額。43億円に。
- ・(2/21中)核燃料。税金交付金。青森。県民。増額へ。24年度。
- ・(2/24中)柏崎刈羽。原発の避難計画。疑問視。国説明に。
- ・(2/24中)250年前にも大津波。石川。富山。他。地域も検証。25年。

一般家庭の値上がり幅

北海道電力	65円
東北電力	▲24円
東京電力	▲2円
中部電力	38円
北陸電力	5円
関西電力	65円
中国電力	27円
四国電力	▲3円
九州電力	23円
沖縄電力	35円

(出所)平均的な月間の使用量で算出した各社発表に基づく。▲はマイナス

福島第1原発の事故対応費用

賠償	9.2兆円	政府試算
除染	4兆円	試算外
中間貯蔵	2.2兆円	帰還困難区域の除染
廃炉	8兆円	除染廃棄物の最終処分
計	23.4兆円	4000億円(2024年度まで)
		不明
		不明

- ・(2/10日)出力制御。嘆く再エネ業者。減収。創産の恐れも。ほくほく。
- ・(2/11中)福島第一。事故から未だ13年。廃炉の道のり。なお遠く。汚染水。1日90トン発生続く。
- ・(2/11日)事故45年。廃炉作業続く。ホスリール原発。
- ・(2/14中)核の心。処分。文庫調査終了。概要調査に進むたのには。知事の同意が必要。鈴木直道。知事は反対。
- ・(2/14中)CO2貯留新法案。政府口会に提出。
- ・(2/15中)原発事故対策。見直し着手。
- ・(2/16日)汚染水漏れ。東電「確認ミス」。
- ・(2/17中)福島。富岡の帰還区域認定。
- ・(2/18中)太陽光パネル。再資源化。松江の企業稼働。
- ・(2/19中)汚染水。漏れ防止。東電社長。指導へ。経営相。
- ・(2/20中)女川原発。9日再稼働へ。2号機。被災地。初。総額。43億円に。
- ・(2/21中)核燃料。税金交付金。青森。県民。増額へ。24年度。
- ・(2/24中)柏崎刈羽。原発の避難計画。疑問視。国説明に。
- ・(2/24中)250年前にも大津波。石川。富山。他。地域も検証。25年。

地域の関連するニュース

◎中間貯蔵関係

・(1/25中)中電、森林の伐採始める。立地調査へ向け準備。
 ・(1/25中)中電、森林の伐採始める。立地調査へ向け準備。

・(1/31中)中電、中間貯蔵について周辺協議で説明。30日、柳井市議会へ。2月5日、平生、国防大島を終了。

・(2/2中)上関原発調査訴訟、中電「周辺」で漁でまず。住民側は世帯主自体を疑問視。

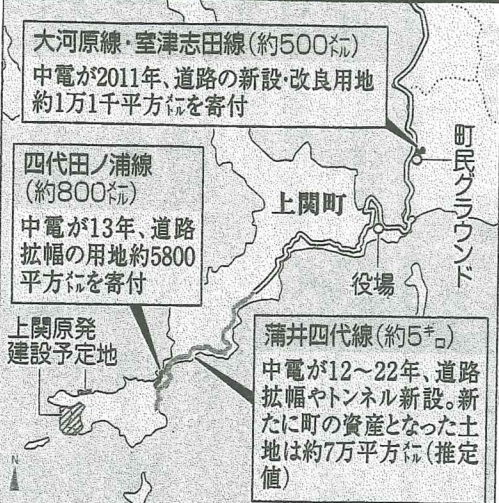
・(2/17中)アミとネコの島は今、
 ・(2/17中)国の生物多様性を守るサイト、県、環境計画盛り込む。「自然共生」が所認定目標。支援センター設置へ。景自然保護課「生物の多様性を維持する」ための毎年一ヶ所は確定にサイトに認定されるよう努めたい。

・(2/18中)中電、地元説明を継続。敷地内ではレールの敷設進む。1ヶ所はボーリング予定。ボーリング調査に半年。中電、住民の希望に応じ、ブルカワ単位で、東海や2の中間貯蔵施設の視察に。費用は中電が負担。

・(2/19中)中電、上関3町道整備。2008、2022年に、数十億円規模、町の有代わり。原発計画維持目的。大島堅一教授「事実上の寄付行為、費用を公表せず、消費者や株主がモロモロ負担するのは問題。」

・(2/20中)中電、地元説明を継続。敷地内ではレールの敷設進む。1ヶ所はボーリング予定。ボーリング調査に半年。中電、住民の希望に応じ、ブルカワ単位で、東海や2の中間貯蔵施設の視察に。費用は中電が負担。

中電が上関町に整備した3町道の概要



※上関町への取材に基づく。蒲井四代線については、同町も一部の土地を買収している

「原子力マネーは麻薬みたいなもの。使い始めたら次も次もなる。次に(原子力)施設が来る。うまく使われる。受け入れてくれるのや」と
 ・(2/21中)「原子力マネーと地域」大島堅一龍谷大教授、「外部依存 創意工夫 阻む。」

(2/18中口)

中間貯蔵施設を巡るこの半年間の動き

2023年	8月2日	中電が上関町に関西電力と共同で中間貯蔵施設の建設検討を提案
	18日	上関町が中電へ調査受け入れを回答
	21日	中電が上関町に森林の伐採届を提出
11月	19日	中電の伐採着手の期限
	21日	柳井市長が上関町長へ周辺1市3町に情報提供など事前の配慮をよう申し入れ
	28日	中電が周辺1市3町の首長へ説明を始める
12月	22日	中電が上関町に森林の伐採届を再び提出
2024年	1月24日	中電が伐採作業に着手
	30日	中電が周辺1市3町の議会へ説明を始める

2町4町漁業連盟、周辺市町に申し入れ。

反社 署名 275,043 2月7日

◎その他地域のニュース

・(1/29中)岩国市長福田氏ら選

・(1/30中)地元活用バイオマス発電、広島県神石高下原で。

・(1/31中)上関の良き歩み納得。宮津と祝島の3コース住民ら参加。意見交換 懸念アツク策練。

・(2/1中)中電、島根原発死亡事故再発防止策発表。再稼働予定変更なし。

・(2/1中)政治資金 豊流公表、自民県連回答せず。市民連合申し入れに。

・(2/1中)中電、黒字 120億円予想。24年3月期。過去最高

・(2/3中)中国地方の新電力シニアビル、工場向け低下続く。撤退のえりきょう、残る。

・(2/4中)脱炭素農業 体制強化へ、ソーラーアグリゲモデル農地整備。

・(2/20中)島根原発と地震。避難計画の定初性あるのか。

・(2/20中)島根原発2号機停止の仮処分、着目終了。判断時期未定。

・(2/21中)新電力の撤退影響 着目。最終保障が大幅減。中口地方。

↓関連する記事・全口版のつぎ、
 ・(2/24中)「処理水」凡評被害8割。海洋放出半年、全口42漁連・漁協調査。中口禁輸各地に波及。

⑧

おパニフの紹介



Eメール: kakugomi@gol.com

1冊 300円。まとのご注文すると安く。メルマガお問い合わせ

お昨年、上関、柳井、宇部の3ヶ所が中間貯蔵について清濁して下った末田一秀さんの上関バーションのパニフ。です。

キタスクの表面からは測定がつかない中性子が出てくるパニフです。

2401：目からウロコ 珠洲原発がなく、本当に良かった!! その1

元旦に、携帯が「地震です！ 地震です！」と叫び、ユラユラと揺れてきて、ほどなく能登半島の地震と分かりました。能登と言えば、まさに珠洲原発の計画を住民が命がけて退治して下さったところ。もし、住民がおカネに負けて、珠洲原発が建っていたら……、きっとフクイチの二の舞になっていたはず。国会議員と違って、おカネに負けなかった住民の方々に心から感謝します。今、全滅に近い破壊をされた町々の一時も早い復興を願って、志賀原発で起きた数々の「想定外」の出来事をお伝えします。 アヒンサー

主電源喪失、燃料プールからは水が漏れ—— 志賀原発クライシス 週刊文春：2024年1月18日号

絶えず、強風が吹きつける日本海沿岸。大地震が生んだ亀裂や陥没の目立つ道路を進むと、その姿がフェンス越しに見えてくる。

灰色の空に伸びた日本の煙突を頂く建物には、ブルーとホワイトの鮮やかな配色がほどこされているが、冬の日本海沿岸ではくすんだように映る。

ともに停止中の1号機と2号機を擁し、北陸電力にとって唯一持つ「虎の子」でもある志賀原発。地震は発生後も、堅牢そうな発電所の外観は一見、平時となんら変わりはない。

「外部への放射能の影響はありません」

地震発生後の1週間、北陸電力は繰り返しアナウンスしてきた。

だが、フェンスの向こう側では、異様な緊張が続いている。敷地内部では次々と、異常な事象が発生しているのだ。

政府の諮問機関である「原子力委員会」委員長代理を務めた長崎大・鈴木達治郎教授はこう言う。

「原子力規制や北陸電力による映像などの情報開示が乏しい中、大変な懸念を持って推移を見えています。2011年の福島第一原発事故以降、原発にこれほどの

危機が差し迫ったのは、間違いなく初めてのことでしよう」

能登半島の西側中部に位置する志賀町には、最大震度7が襲来。町内の一地点では、東日本大震災に匹敵する揺れ（最大加速度2800ガル）に達した。この大揺れが志賀原発に招いたのは、電源トラブルだ。

元旦の発生直後、＜外部電源を一部使えず＞と、北陸電力の発表を基に各メディアは報じた。だが、この＜一部＞という表現は被害を矮小化したものだ。

志賀原発の外部電源には、▷500KV（キロボルト）、▷275KV、▷66KV——大別三つの系統がある。このうち前者二つの経路上にある変圧器が、今回の地震で故障。特に500KVの経路では「主変圧器」と呼ばれるメインの機器が壊れた。

その結果、全体841KVのうち、実に6割を占める500KVもの外部電源を失っていたのである。

「いわば“主電源”を失った状態と言えます。一刻も早く復旧することが必要です。原発では、電源の確保が何より重要なのです。福島では予備電源を含むすべての電源を失ったことから炉心溶融（メルトダウン）などの深刻な事故につながってしまった。今回は予備の電源が生きていたことから、危険な状態には至らずに済んでいるのです」（同前）。

喪失の原因は、変圧器からの大量の油漏れだ。当初、北陸電力は漏れた油を3500リットルと説明したが、最終的には5倍の約2万リットルだと判明。更に、一部は日本海に流れ出たことも分かっている。

「変圧器を巡っては、発災直後に林芳正官房長官が『火災があった』と説明しましたが、北陸電力がその後『火災は起きていない』と否定する一幕も。情報が錯綜しました」（経済部記者）

原発の敷地内では地震の爪痕が次々見つかると、北陸電力が連日報告している。

「地面に35センチの段差が出来た箇所もあった。防潮壁は傾き、数センチ沈下。更に海とつながる取水槽の水位は3メートルほど上昇していたこともわかり、海拔12メートルの敷地に直接到達してはいないのですが、



津波による何らかの影響を伺わせました」（同前）

主電源への深刻なダメージと共に注目すべきは、「使用済み核燃料プール」。ここにも地震の影響があった。

原発事故の最大の懸念は放射性物質の拡散だ。運転停止中の志賀原発では、すべての核燃料は冷却と遮蔽のため、1号機と2号機の「プール」に沈める形で保管されており、その数は計1477体にのぼる。

この二つのプールから計421リットルの放射性物質に汚染された水が漏れだし、建物内に溢れたのだ。しかも溢水に伴い、プールの冷却ポンプも一時的に停止していた。現在、水位は保たれ、核燃料の冷却も継続しており、「外部への影響はない」と北陸電力は主張する。だが溢れた水は、当然、人体に影響するものだ。

さらに空気中の放射線量を測定するモニタリングポストの故障もあった。

放射線漏れを監視するモニタリングポストは志賀原発から30キロ圏内に百カ所超設置されている。このうち最大で15カ所が数値を確認できない状態に陥っていたのだ。

現在、徐々に復旧しているというが、故障は原発以北の被害が烈しい地域に集中した。言い換えれば能登半島の北部では、一時放射線量の増減が不明な状態だったという事だ。

元京都大学原子炉実験所助教の工学者、小出裕章氏が話す。

メルトダウンに匹敵も

「モニタリングポストは住民避難のために必要なものです。今回は放射能を外部に出す事態にまでなっていませんが、もしそうした重大な事故があった場合、線量のデータがなければ、どう逃がしていいかも判断できないことになる。本来であれば、絶対に壊れてはいけない設備です」

電源喪失、汚染水漏れ、放射線量チェックの不備。どれをとっても危機的なトラブルが続出した志賀原発だが、辛うじて重大な局面を避けおおせている。

原発の安全審査に関わってきた大阪大学名誉教授の宮崎慶次氏はこう述べる。

「福島第一原発を連想し、懸念される方も多いかもしれないが、志賀原発は福島を教訓として安全対策をしてきた。重大な事故につながる懸念はない」

他方、運転中でなくて良かった、と指摘する識者も。「運転中に大きな揺れが起きた場合、さすが原子炉

を停止する必要がある。制御棒の挿し込みや、それを水圧で押し出す配管が機能したかなど、停止中とは比較にならない程やるべきこと「がある。この規模の地震のさなかで、それがきっちり行なえるかどうかは未知数と言わざるを得ません」（原子力資料情報室の上澤千尋氏）

そして「最悪のケースはこうだ。

「厄介なのは、停止に成功して核分裂連鎖反応が終わっても、原子炉では『崩壊熱』と呼ばれる発熱が続く。冷やし続けなければ、福島のようにメルトダウン、メルトスルーに至り、大変なことになる」（京都大学複合原子力科学研究所研究員・今中哲二氏）

志賀原発にとってさらに蓋然性の高いシナリオは、本震級の余震が再び襲うことである。

前出の鈴木教授が語る

「大変心配される局面です。設備のあちこちに破損があり弱っている所に、もう一度大きな余震があった場合に果たしてどうなるのか。今は機能している残った外部電源を始め、設備がそれに耐えられると言い切れるでしょうか」

能登半島では既に千回以上の余震が続いている。6日夜の余震で志賀町の震度計は6弱の大きな揺れを記録した。ダメージを負ったままの原発に二度目の衝撃が襲って来たとしたら——。

仮に電源を失えば、1400余りの核燃料が眠る青白い水の中で、静謐な“カウントダウン”が始まる。

「使用済み核燃料プールを全く冷却できなくなった場合、水の温度が上昇しやがて蒸発。核燃料がむき出しの状態になります。北陸電力によれば蒸発までの猶予は1号機は17日間、2号機は29日間と計算されています（前出・記者）

この時起きるのは「メルトダウンに匹敵するか、それ以上に外部へ大きな影響を与える事故」だと鈴木教授が解説する。

「プールの水位が下がり、燃料棒が空気に触れればすぐさま『シリコニウム火災』を起こします。燃料棒の外郭である“サヤ”が壊れ、内部の大量の放射性物質が次々と放出されてしまうのです。そこまでの事故に至れば、近辺住民の避難を含め、外部環境への深刻な影響は発生するでしょう」

能登の冬は厳しさをまし、一刻も早い被災者の救助と支援が求められる最中、志賀原発が「直面するクライシスも未だ予断を許さない。

Yahoo Japan News
**立地しなくて良かった、
 再稼働しなくて良かった
 能登半島震災で
 「脱原発」が加速か**
 石田雅彦：サイエンスライター
 2024/01/19



地震が起きるたびに原発を心配しなければならない日本だが、今回の能登半島地震でも石川県志賀町にある志賀原発の被災状況が注視された。先日、原子力を考える市民の会が主催するオンラインシンポジウムが開かれ、原発の危険性と住民避難の困難さなどについて活発に意見が交わされた。

原発は地震に耐えられるのか

シンポジウムは原子力市民委員会が主催し、大島堅一（龍谷大学教授、原子力市民委員会座長）氏、松久保肇（原子力資料情報室事務局長、原子力市民委員会委員）氏、立石雅昭（新潟大学名誉教授、原子力市民委員会アドバイザー）氏、後藤政志（元東芝 原発設計技術者、原子力市民委員会委員）氏、上岡直見（環境経済研究所所長）氏、北野進（珠洲市在住、志賀原発廃炉に！訴訟原告団長）氏、添田孝史（科学ジャーナリスト）氏が参加した。

大島氏の主旨説明の後、松久保氏が能登半島地震による志賀原発への被害現状を解説、立石氏が能登半島地震などの地震波や地殻変動と原発の耐震安全の欺まん性を、後藤氏が地震によって原発に何が起きるか予測不可能であり、原発はすぐに止めなければならないと訴えた。

また、上岡氏は自然災害によって原発事故が起きた際の住民避難の困難さについて指摘し、北野氏は今回の能登半島地震の被災者の一人として志賀原発の廃炉を訴え、

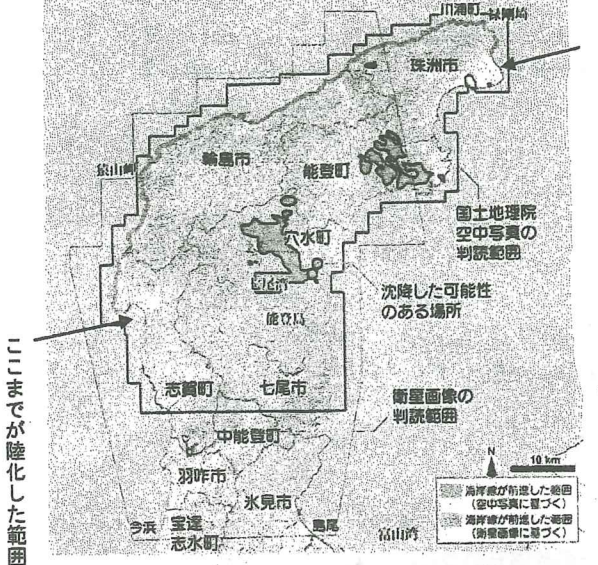


図1 判読範囲と地震後に陸化した範囲

添田氏は石川県や福井県の地震評価の不備を周辺自治体と比較して懸念を示した。

特に疑念や懸念が示されたのは、地震による地盤の隆起などの地形変化に原発が果たして耐えるのかということ、そして大規模な地震が起きた際、原発事故への初期対応として屋内退避や遠方への避難が推奨されているが果たしてそれが可能なかどうかだった。

各氏が強調していたのは、立地が検討されていたものの地元などの反対で計画が凍結されている珠洲原発がもしあったらということ、停止中の志賀原発がもし稼働中だったらということだ。実際、今回の能登半島地震の震源は珠洲原発の建設予定に近く、もしあの場所に原発があったら重大事故が起きていたのは間違いない。

地震では能登半島の北岸が広く隆起した。（中略）令和6年能登半島地震変動地形グループ 立石氏は、日本地理学会の災害対応チームの調査報告を牽いて志賀原発の北にある富来川南岸断層の危険性を指摘し、さらに東京電力の柏崎刈羽原発周辺の地理学的な危険性にも懸念を示した。また、これまで個別に動くと考えられていた断層が連動して動く危険性などから、2006年に策定された原発の耐震設計審査指針の全面的な見直しを求めた。

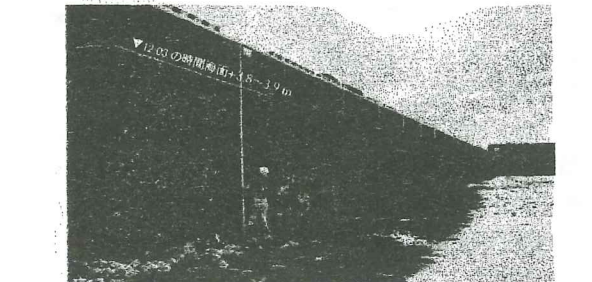
想定外のことが起きる危険性

日本の原発の立地は、冷却水の取り入れのため、その

「二」までが陸化した範囲

全てが海岸に隣接している。地震の揺れに加え、津波被害も想定しなければならない。松久保氏は、仮に数メートル単位で地盤が隆起した場合、原発の冷却水の確保はどうなるか懸念を示し、1号機と2号機の使用済み核燃料プールの温度が電源喪失によって接し00℃迄到達する日数【1号機17日、2号機29日】を指摘した。

（注：「マグニチュード3以上の地震の記録」は省略）



地震により能登半島北西岸の鹿磯（かいそ）漁港の防波堤が3.8メートルから3.9メートル隆起した。産総研地質調査総合センター「第四報（中略）」より

また、原子力市民委員会事務局の細川弘明氏はオンラインシンポジウムのQ&Aに答える形で、今回の能登半島地震で取水トンネルなどの損傷の報告はないが、地盤隆起が原発の北7キロメートルで確認されているので取水システムの損傷の危険性があった、と述べている。

志賀原発の1号機、2号機ともに停止中だが、東日本大震災に匹敵するような地震動が襲い、電源トラブルなどが頻出した。さらに、原発を維持管理する北陸電力のリリースも錯綜し、情報が小出しにされて電力会社への不信感がより増した。原発より北方にある放射能の空間線量を計測するモニタリングポストも地震によって故障し、しばらくデータが取得できない状況が続いた。

後藤氏は、原発にとって何が脅威かといえば、想定していないことが起きることと述べ、今回のような地震などの外部事象に加え、原発内部の機能喪失などの内部事象、そしてヒューマンエラーなどを予測することは不可能だと強調した。そして、現在の原発は全て強固な地盤の上に建てられているという欺瞞を指摘し、地盤の隆起や地割れが起きることを想定した設計がなされていない「安全神話」が前提と批判した。

住民の放射線防護や避難は不可能

今回の能登半島地震では、海岸線が数メートル単位で

隆起し、各所で断層ズレなどが起きた。地震の多い日本では、原発を安全に立地できる場所はほとんどないと言える。

上岡氏は、内閣府の原子力防災に関するQ&Aから、大規模な震災が起きれば被災地はもちろん、避難受け入れ先も甚大な被害が及び、原発事故が起きた場合、住民の避難や屋内退避、被爆被害を軽減するためのヨウ素剤配布など不可能ではないかと指摘した。さらに、今回の地震ではNHKのアナウンサーが「テレビを見ていないで逃げて」と叫んだことを牽き、原発事故の状況や放射性物質の放出などの情報が住民に届かないのではないかと懸念を示し、原子力災害対策指針は全面崩壊した、述べた。

珠洲市在住の北野氏は、被災地での実際の移動の困難さを指摘し、特に豪雪地帯での除雪は難しく、原発事故が起きた場合、30キロ圏外への避難は実質的に不可能と述べた。そして、志賀原発への地震の被害に懸念を示し、珠洲原発が立地されず良かった、志賀原発が停止中で良かったと強調した。

添田氏は、石川県が計画した地震と津波の評価の矛盾を指摘し、今回の能登半島地震の震源や断層を早い段階からわかっていたのに何もなかったと批判した。また、石川県は志賀原発の近くを通る邑知漏（おうちがた）断層も過小評価しているとし、これは同じように原発のある福井県と似たように行政による危険性の過小評価と指摘し、原発災害対応の眼目である住民避難について、原発を立地する行政はことさら目立たないようにしてきたのではないかと懸念を示した。

これまで政府や原発行政、電力会社などは、地震に対する原発の安全性を強引に担保し、重大事故が起きた際の現実的な住民避難を軽視し、真剣に考えてこなかった。今回の能登半島地震は、原発の再稼働は不可能だし、現在稼働中の原発は今すぐに停止し、廃炉へ向けて動かなければならないことを教えてくれた。

石田雅彦 いしだまさひこ サイエンスライター、編集者：北海道出身。法政大学経済学部卒業、横浜市立大学大学院医学研究科修士課程修了、医科学修士。近代映画社から独立後、醍醐味エンタープライズ（出版企画制作）設立。紙媒体の商業誌編集長などを経験。日本医学ジャーナリスト協会会員。水中遺物探索学会主宰。サイエンス系の単著に『恐竜大接近』（監修：小島郁生）『遺伝子・ゲノム最前線』（監修：和田昭允）などがある

10